



日本海溝・千島海溝を震源とする巨大地震・巨大津波に備え、国は対策の強化が必要な地域として8道県の272市町村を「地震防災対策推進地域」に指定。このうち本町を含む7道県108市町村については、津波への警戒が必要な「津波避難対策特別強化地域」として指定しました。

特別強化地域は、津波避難タワー整備などの国の補助率が2分の1から3分の2に上がります。

本町は、冬場の厳しい寒さでの対策などを盛り込んだ「地震防災対策推進計画」や「津波避難対策緊急事業計画」を策定し、早急に防災対策を進めていきます。



巨大地震・巨大津波に備えた防災対策

問合せ 地域防災課地域防災係 ☎212171 内線(222)

新たな被害想定

東日本大震災以降、本町では「逃げるが勝ち」をスローガンに、20分以内に高台へ避難することを目標として、津波避難対策を進めてきました。

昨年7月、国は最新の知見を加えて「日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震」による津波浸水想定を発表。同年12月には巨大地震の被害想定を公表しました。これを受けて北海道は、本年7月に津波浸水想定に基づき想

定される市町村ごとの被害想定を公表しました。

その被害想定では、千島海溝地震で最大級の津波が襲った場合、白糠町では冬の夕方に逃げ遅れると、最大で4600人が亡くなる恐れがあると予測。冬の深夜に逃げ遅れると5000人が亡くなるとの予測です。

その一方で、津波からの迅速な避難や、避難の呼びかけ、津波避難タワーなどの整備により津波対策を講じることによって、被害を軽減することができるとされています。

津波避難対策

住民説明会を実施

- 11月25日(金)と26日(土)の両日、次の①～⑤の5カ所で「新たな津波避難対策についての住民説明会」を開催しました。
- ①白糠市街鉄道以北(会場・白糠消防庁舎) 20人出席
- ②白糠市街鉄道以南(会場・社会福祉センター) 64人出席
- ③庶路市街(会場・庶路町民センター) 21人出席
- ④西庶路市街(会場・西庶路コミ

ユニティセンター)51人出席
⑤刺牛・岬・東本通(刺牛集会所) 8人出席

説明会の出席案内は、高台への避難が可能な鉄道より北側の地域は「町内会長のみ」、南側の地域は「町内会長を含む地域住民の皆さん」としました。

町内会長のみに出席を案内した説明会では、高台への避難が可能な地域であるため、これまでと同様に津波避難の取り組みを行っていただくことをお願いしました。また、先月の「広報しらぬか」6頁でお知らせした「新・避難訓練」への参加と協力をお願いしました。

地域住民の皆さんにも出席を案内した説明会では、20分以内に高台へ避難することが困難な地域があるため、各々の実情を考えた避難対策についての説明をしました。また、西庶路市街地域では、大規模災害の避難所が「庶路学園」であり、その避難所運営には、地域の連携と協力が不可欠なことから、鉄道の北側と南側を一堂に会しての開催としました。

棚野孝夫町長は「津波の被害

想定が変わっても高台へ避難するということは変わりません。20分以内に高台へ避難することができる地域は、これまでどおり高台への避難をお願いいたします。20分以内に高台へ避難することが困難な地域は、近くにある大きな建物を活用するか、近くに建物がない場合は、津波避難タワーを整備するのかなど、地域と相談した上で進めていきたい」と話していました。

出席者からは「自ら避難できない方の対応について」「避難路の整備について」「身体が不自由な方の備蓄品の整備について」など、さまざまな意見や質問がありました。すぐに対応できるものは、速やかに取り進め、検討が必要なものについても、速やかに検討を進めていきます。

生死を分けるのは避難開始時間

災害はいつ起きるかわかりません。朝または昼、夕方、もしくは深夜なのか、夏場なのか冬場なのか、それらによって準備は異なってきますが、大切な

「新・避難訓練」に参加をお願いします

町では、厳冬の巨大地震を想定し、身支度をして5分以内に自宅の外へ出る「新・避難訓練」を実施しています。1回目は12月10日に行いましたが、2回目は1月14日、3回目は2月11日に実施します。速やかに避難できるように、ぜひこの訓練に参加してください。町内会では、この訓練の結果を共有し、避難対策への検討をお願いします。